2018年3月期（平成30年3月期）
決算説明会

2018年5月25日（金）

株式会社エスライン

東京証券取引所市場第一部

名古屋証券取引所市場第一部

【証券コード：9078】

2018年3月期 決算概要

2018年3月期　決算トピックス

事業テーマ 『70周年に感謝　中期経営計画を達成し、更なる成長』

- 東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部へ上場
- 営業収益は2期連続で過去最高額を達成
- 運賃改定の取り組みで5億6，100万円の増収
- 引越サービスの拡大と「引越研修センター」の開設
- ㈱エスラインギフで大型商品配送用にユニック車を3台導入
- 若年者を中心に賃上げを実施、新入社員28名（内ドライバー15名）入社

東京証券取引所 市場第一部
名古屋証券取引所 市場第一部上場

引越研修センターでの研修風景

連結決算概要

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期			
						予想	実績	前期比	予想比
営業収益	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	47,000	46,858	5.4%	▲0.3%
営業総利益	1,510	3,100	1,453	3,080	1,460	3,300	3,107	0.9%	▲5.8%
（営業総利益率）	(6.8%)	(7.0%)	(6.6%)	(6.9%)	(6.3%)	(7.0%)	(6.6%)	—	—
販売費及び一般管理費	785	1,597	799	1,654	833	1,700	1,652	▲0.1%	▲2.8%
営業利益	724	1,503	654	1,426	627	1,600	1,455	2.0%	▲9.1%
（営業利益率）	(3.3%)	(3.4%)	(3.0%)	(3.2%)	(2.7%)	(3.4%)	(3.1%)	—	—
経常利益	766	1,580	697	1,519	651	1,660	1,525	0.4%	▲8.1%
（経常利益率）	(3.4%)	(3.6%)	(3.2%)	(3.4%)	(2.8%)	(3.5%)	(3.3%)	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	515	1,123	470	1,224	422	1,100	986	▲19.4%	▲10.3%

営業収益の増減要因（連結）

（百万円）

営業利益の増減要因（連結）

（百万円）

運賃改定の取り組みの状況

弊社グループ全体で運賃改定に取り組んでまいりました。
2018年3月までにはエスライングループ全体で5億6，100万円、物流関連事業における営業収益の1．2%の実績となりました。

営業費用（人件費／外部委託費）の推移

貨物輸送量の状況

貨物輸送量（特積／貸切）

月別特積貨物輸送量

保管施設の状況

保管施設の延床面積

㈱エスラインギフ総合物流センター
（住所：岐阜県羽島郡岐南町）

㈱スリーエス物流本社第1センター
（住所：愛知県一宮市）

保管施設の状況
中部地区を中心に約100カ所の保管施設を保有。
当期は関東地区、中部地区、九州地区におきまして、保管施設の効率化を図り、
一部施設の賃借及び返却を実施しました。

セグメントの状況：営業収益

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期			
						予想	実績	（前期比）	（予想比）
営業収益	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	47,000	46,858	5.4%	▲0.3%
輸送サービス	16,627	34,365	16,677	34,651	17,610	36,920	36,585	5.5%	▲0.9%
ホームサービス	2,531	4,343	2,283	4,203	2,451	4,651	4,557	8.4%	▲2.0%
物流サービス	2,562	4,519	2,532	4,590	2,564	4,392	4,584	▲0.1%	4.4%
その他サービス	86	190	86	178	96	179	276	0.6%	54.2%
物流関連事業	21,807	43,417	21,578	43,624	22,720	46,142	46,004	5.5%	▲0.3%
不動産関連事業	239	478	237	466	229	459	459	▲1.6%	▲0.0%
その他事業	187	371	199	386	202	396	394	2.0%	▲0.5%

セグメントの状況：営業利益

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期				
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期			
						予想	実績	（前期比）	（予想比）
営業利益	724	1,503	654	1,426	627	1,600	1,455	2.0%	▲9.1%
セグメント利益	1,062	2,117	962	1,955	948	2,100	2,092	7.0%	▲0.4%
輸送サービス	736	1,645	558	1,341	540	1,420	1,350	0.7%	▲4.9%
ホームサービス	47	▲25	40	▲6	76	74	116	2033.3%	56.3%
物流サービス	93	138	158	243	148	258	265	9.1%	2.7%
その他サービス	8	15	15	25	18	26	45	80.0%	73.1%
物流関連事業	884	1,772	771	1,603	782	1,778	1,775	10.7%	▲0.2%
不動産関連事業	124	251	125	236	111	215	221	▲6.2%	2.8%
その他事業	54	93	65	116	54	106	94	▲18.4%	▲11.3%
調整額（本社経費）	▲337	▲614	▲308	▲529	▲321	▲500	▲637	▲20.4%	▲27.4%

連結貸借対照表の概要

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末	増減
流動資産	9,449	9,338	9,237	9,501	10,524	11,261	1,759
固定資産	21,792	22,386	22,924	23,316	22,857	22,793	▲523
資産の部合計	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	34,054	1,236
流動負債	7,031	7,284	7,481	7,380	7,408	7,945	565
固定負債	6,283	6,543	6,948	6,784	6,480	6,003	▲781
負債の部合計	13,315	13,827	14,430	14,164	13,888	13,948	▲215
株主資本	16,893	17,454	17,981	18,722	19,508	20,072	1,349
非支配持分	762	778	36	0	0	0	0
純資産の部合計	17,926	17,947	17,731	18,653	19,493	20,105	1,452
負債及び純資産合計	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	34,054	1,236
自己資本比率	54.9%	54.0%	55.0%	56.8%	58.4%	59.0%	—

連結キャッシュフローの概要

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,116	2,232	894	2,021	1,269	2,773	752
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲226	▲1,698	▲1,234	▲2,114	▲489	▲1,377	777
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲435	▲527	311	4	▲86	▲350	▲354
現金及び現金同等物の増減	415	6	▲27	▲88	693	1,046	—
現金及び現金同等物の期首残高	3,425	3,425	3,051	3,051	2,963	2,963	▲88
現金及び現金同等物の期末残高	3,460	3,051	3,024	2,963	3,656	4,009	1,046

設備投資の状況

（百万円）

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	期末	増減額
減価償却費	598	1,267	702	1,491	824	1,638	147
設備投資額	450	2,219	1,265	2,412	324	1,284	▲1,128
主な設備投資の内容	車両購入 豊田支店新築 太陽光ﾊﾟﾈﾙ設置 （ｴｽﾗｲﾝｷﾞﾌ） 豊橋支店太陽光ﾊﾟﾈﾙ設置 （ｴｽﾗｲﾝｷﾞﾌ） エスラインギフ豊田支店 （住所：愛知県豊田市福受町） （敷地面積：6,285.71㎡）		車両購入 豊田センター新築 （ｴｽﾗｲﾝｷﾞﾌ） 荷扱所、事務所の改築 （ｴｽﾗｲﾝ羽島） 事務所の改築 （ｴｽﾗｲﾝ各務原） エスラインギフ豊田センター （豊田支店隣接） （2階建） （倉庫延べ床面積：4,187.11㎡）		車両購入 豊田第2センター新築工事着手金 （ｴｽﾗｲﾝｷﾞﾌ） 本社物流センター新築工事着手金 （ｽﾜﾛｰ急送）		

2018年3月期の取り組み事項

■全体

重点項目	結果
• 賃金制度の見直し • ドライバーの確保 • 労働時間管理 • 車両事故防止 • エスライングループの事務作業の統一化	• 若年者、ドライバーの賃金制度の見直し • 研修の強化、オートマチック車導入を推進 • 通信型デジタルタコグラフからの時間データの活用 • ドライブレコーダーの活用による事故防止 • 人事管理システム、資金運用システム、債務システムを導入

■物流関連事業

	重点項目	結果
輸送サービス	• 運賃改定 • 「総合配車センター」による最適配車とフォワーダー事業による収益拡大 • 運行効率と作業効率向上による収益拡大を図る • モーダルシフトの導入	• 運賃改定を実施（5億6千1百万円の実績で収益増に寄与） • 「総合配車センター」は体制が整わず、十分な成果を得られず • 貸切輸送の積極的取り組み（4億6千4百万の収益増） • モーダルシフトの導入（岐阜→九州　週末の週2便）
ホームサービス	• 「大型商品宅配サービス」の強化 • 引越ブランド「スワロー引越便」のPR活動 • 単身者向け引越、事務所引越の拡大 • 「研修センター」の開設	• 家具量販店の販売好調により配送・設置業務が増加し、配送料金の値上げも収益増に寄与 • エスラインギフ家電物流事業部でユニック車3台導入 • 「スワロー引越便」の拡大に注力（2億4千万円の実績） • 「研修センター」で当社グループ各社から営業マンや配送スタッフを集めた講習会を実施
物流サービス	• 衣料品関連の商品保管・加工・配送までを請け負う総合物流サービスの獲得	• 大手流通グループの専門店向け商品、量販店向けアパレル関連商品の加工業務の増加 • カーディーラーとタイアップし、夏冬タイヤ保管とタイヤ入替時の配送サービスを岐阜地区で開始

株主還元

- 利益配当は、安定的な配当の継続と業績に応じた適切な利益配分を行うよう努めると同時に、事業の効率化及びグループの成長に向けた内部留保の充実等を総合的に勘案して決定することを基本方針としております。

※　弊社は2015年10月1日を効力発生日とした普通株式2株を1株の割合で株式併合を実施しております。

- 2018年3月31日現在に単元（100株）以上保有されている株主様を対象に株主優待（クオカード1,000円分）を実施します。

100株以上	クオカード　1,000円分

中期経営計画の進捗状況
及び
2019年3月期の業績予想

中期経営計画の取り組み

- 輸送・物流の両サービスの更なる拡大と質の向上を図る
- 専門知識や物流ノウハウを有したエスライングループ中堅社員による、4つのWG(ワーキンググループ)を立ち上げ、実行計画に基づく活動

中期経営計画:『エスラインブランドの確立に向けて』

			2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (当初計画)	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (当初計画)	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)
営業収益			44,302	44,267	45,800	44,478	47,000	46,858	50,000
物流関連事業	貨物自動車運送事業	輸送サービス	33,489	34,365	34,407	34,651	36,920	36,858	38,866
		ホームサービス	4,908	4,343	4,479	4,203	4,651	4,557	4,677
	倉庫業	物流サービス	5,003	4,519	5,847	4,590	4,392	4,584	5,439
	その他サービス		175	190	186	178	179	276	171
			43,574	43,417	44,920	43,624	46,142	46,004	49,153
	不動産関連事業		400	478	495	466	459	459	459
	その他事業		327	371	385	386	396	394	386
経常利益			1,328	1,580	1,600	1,519	1,660	1,525	1,800

2019年3月期の取り組み事項

重点項目

輸送サービス

- 運賃改定交渉（適正運賃への改定、諸料金の見直し、付帯作業の有料化等の料金交渉）を継続
- 「総合配車センター」の体制再整備を行い、フォワーダー事業による収益拡大を目指す
- エスラインギフ西淀川支店（大阪市淀川区）を新築移転し、関西地区の営業力・配送網を強化し、収入拡大に取り組む

ホームサービス

- 荷主層の再編を実施
- 「ツーマン配送」エリアの拡大（配送エリアを関西・九州に拡大展開を図る）
- 引越ブランド「スワロー引越便」のPR活動と営業活動の継続
- 社内向け教育活動として、社内情報公開サイト「SL-PORTAL」や「引越研修センター」を活用し、ホームサービスにおける作業品質の向上を図る

物流サービス

- 衣料品関連の商品保管・加工・配送までを請け負う一貫物流サービスの獲得（既存施設と物流ノウハウの有効活用）
- スワロー急送本社物流センターを中部地区におけるアパレル関連商品の一貫物流サービスの中核となるよう、営業活動を進める
- エスラインギフ豊田第2センターにおいて、第1センター同様、自動車関連部品等の保管・配送業務を行う

全体

- ドライバーの確保（研修の強化、全車両オートマチック車導入を目指す）
- 「スワロー引越便」の業務全般を支援する情報システムや現場作業の早期終了、幹線便の早期出発を目指し、「貨物輸送量を見える化」を実現する情報システムを構築する
- 安全への取り組みとして、エスラインギフ全ての幹線便に導入した眠気検知システムから取得したデータから乗務員が安全で安心して運行できる環境の構築を目指す

セグメント別業績予想

（百万円）

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期（予想）		
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	（前期比）
営業収益	22,016	44,478	23,152	46,858	24,500	50,000	6.7%
物流関連事業	21,578	43,624	22,720	46,004	24,070	49,153	6.8%
輸送サービス	16,677	34,651	17,610	36,585	19,135	38,866	6.2%
ホームサービス	2,283	4,203	2,451	4,557	2,490	4,677	2.6%
物流サービス	2,532	4,590	2,564	4,584	2,360	5,439	18.7%
その他サービス	86	178	96	276	110	171	▲38.0%
不動産関連事業	237	466	229	459	229	459	0.0%
その他事業	199	386	202	394	198	386	▲2.0%
営業利益	654	1,426	627	1,455	780	1,750	20.3%
セグメント利益	962	1,955	948	2,092	1,110	2,400	14.7%
物流関連事業	771	1,603	782	1,775	948	2,086	17.5%
輸送サービス	558	1,341	540	1,350	693	1,588	17.6%
ホームサービス	40	▲6	76	116	93	137	18.1%
物流サービス	158	243	148	265	144	325	22.6%
その他サービス	15	25	18	45	18	36	▲20.0%
不動産関連事業	125	236	111	221	107	222	0.5%
その他事業	65	116	54	94	56	92	▲2.1%
調整額（本社経費）	▲308	▲529	▲321	▲637	▲330	▲650	▲2.0%

物流ネットワークの強化

東海道を中心に拠点ネットワークを強化し、収益拡大を図ります。

参考データ集

連結業績推移

（百万円）

	2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益	21,039	43,279	21,790	44,302	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	46,858
営業総利益	1,035	2,552	1,211	2,897	1,510	3,100	1,453	3,080	1,460	3,107
（営業総利益率）	(4.9%)	(5.9%)	(5.6%)	(6.5%)	(6.8%)	(7.0%)	(6.6%)	(6.9%)	(6.3%)	(6.6%)
販管費	799	1,606	820	1,657	785	1,597	799	1,654	833	1,652
営業利益	236	945	391	1,240	724	1,503	654	1,426	627	1,455
（営業利益率）	(1.1%)	(2.2%)	(1.8%)	(2.8%)	(3.3%)	(3.4%)	(3.0%)	(3.2%)	(2.7%)	(3.1%)
経常利益	295	1,050	459	1,328	766	1,580	697	1,519	651	1,525
（経常利益率）	(1.4%)	(2.4%)	(2.1%)	(3.0%)	(3.4%)	(3.6%)	(3.2%)	(3.4%)	(2.8%)	(3.3%)
当期純利益	152	771	254	1,595	515	1,123	470	1,224	422	986

連結業績推移

（百万円）

			2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
			第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益			21,039	43,279	21,790	44,303	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	46,858
物流関連事業			20,687	42,573	21,426	43,575	21,807	43,417	21,578	43,624	22,720	46,004
	貨物自動車運送事業	輸送サービス	15,862	32,505	16,537	33,489	16,627	34,365	16,677	34,651	17,610	36,585
		ホームサービス	2,683	5,523	2,470	4,908	2,531	4,343	2,284	4,203	2,451	4,557
	倉庫業	物流サービス	2,035	4,323	2,334	5,003	2,562	4,519	2,532	4,590	2,564	4,584
	その他サービス		107	222	85	175	86	190	86	178	96	276
不動産関連事業			199	402	201	400	239	478	237	466	229	459
その他事業			152	304	163	327	187	371	199	386	202	394

			2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
			第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業利益			236	945	391	1,240	736	1,503	654	1,426	627	1,455
セグメント利益			600	1,666	746	1,951	1,063	2,117	962	1,956	948	2,092
物流関連事業			484	1,431	615	1,676	884	1,772	771	1,603	782	1,775
	貨物自動車運送事業	輸送サービス	428	1,250	557	1,475	736	1,645	558	1,341	540	1,350
		ホームサービス	24	71	▲9	▲27	47	▲25	40	▲6	76	116
	倉庫業	物流サービス	26	90	61	211	93	138	158	243	148	265
	その他サービス		6	20	6	17	8	15	15	25	18	45
不動産関連事業			99	201	102	207	124	251	125	236	111	221
その他事業			15	33	28	68	54	93	65	116	54	94
調整額（本社経費）			▲363	▲720	▲355	▲714	▲337	▲614	▲308	▲529	▲321	▲637

連結業績推移（セグメント別比率）

各セグメント状況（営業収益）

各セグメント状況（セグメント利益）

連結財務推移

（百万円）

	2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
流動資産	8,039	9,318	9,296	10.027	9,449	9,338	9,237	9,501	10,524	11,261
固定資産	20,359	20,873	21,327	21,475	21,792	22,386	22,924	23,316	22,857	22,793
資産の部合計	28,398	30,192	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	34,054
流動負債	6,936	7,726	7,921	7,777	7,031	7,284	7,481	7,380	7,408	7,945
固定負債	5,957	6,387	6,462	6,507	6,283	6,543	6,948	6,784	6,480	6,003
負債の部合計	12,894	14,114	14,384	14,284	13,315	13,827	14,430	14,164	13,888	13,948
株主資本	14,474	15,092	15,152	16,394	16,893	17,454	17,981	18,722	19,508	20,072
非支配持分	663	685	701	719	762	778	36	0	0	0
純資産の部合計	15,503	16,078	16,239	17,217	17,926	17,947	17,731	18,653	19,493	20,105
負債及び純資産合計	28,398	30,192	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	34,054
自己資本比率	52.3%	51.0%	50.7%	52.4%	54.9%	54.0%	55.0%	56.8%	58.4%	59.0%
従業員数（正社員）		2,005		2,026		2,055		2,117		2,100

	2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
1株あたり配当金（円）	—	6.0	—	7.0	—	14.0	—	15.0	—	17.0
配当性向（%）		16.2		9.1		12.7		12.8		18.6

連結キャッシュフロー推移

（百万円）

	2014年3月期		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業活動によるCF	1,157	2,137	954	2,424	1,116	2,232	894	2,021	1,269	2,773
投資活動によるCF	▲672	▲1,500	▲676	▲1,740	▲226	▲1,698	▲1,234	▲2,114	▲489	▲1,377
財務活動によるCF	▲215	89	▲96	0	▲435	▲527	311	4	▲86	▲350
現金同等物増減	269	725	181	684	415	6	▲27	▲88	693	1,046
現金同等物期首残高	2,015	2,015	2,741	2,741	3,425	3,425	3,051	3,051	2,963	2,963
現金同等物残高	2,284	2,741	2,922	3,425	3,460	3,051	3,024	2,963	3,656	4,009
設備投資費	652	1,840	927	2,239	450	2,219	1,265	2,412	324	1,284
減価償却費	588	1,212	625	1,285	598	1,267	702	1,491	824	1,638

その他参考データ①

貨物輸送量

主な荷主の構成

特積収入

家電収入

その他参考データ②

参考資料集

会社概要（2018年3月末現在）

会社名	株式会社エスライン(S LINE CO.,LTD.)
代表取締役社長	山口 嘉彦
本社所在地	〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成4丁目68番地
設立	1947年(昭和22年)3月10日
資本金	22億37百万円
発行済株式総数	11,095,203株
主な事業内容	物流関連事業 不動産関連事業 その他事業
子会社	23社
社員数(連結)	2,100名 (外、平均臨時雇用者数:1,290名)
車両数(連結)	2,400台（事業用）
上場区分	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部

代表取締役社長
山口　嘉彦

本社社屋

エスラインの拠点ネットワーク

中部地区を中心に日本全国に広がるネットワークで、
お客様に喜んで頂ける物流サービスをご提供しております。

㈱エスライン羽島本社
（羽島市）

㈱スリーエス物流本社第1センター
（一宮市）

㈱エスラインギフ東北センター
（仙台市若林区）

㈱エスラインギフ豊田支店
（豊田市）

㈱エスラインギフ名古屋第1センター
（清須市）

㈱エスラインギフ東京支店
（東京都江東区）

㈱エスライン九州鹿児島支店
（鹿児島市）

㈱エスライン奈良本社
（奈良県天理市）

経営の基本理念

エスライン

社是「和」を中心に運命共同体の一員として職務に応じ企業の運営を分担する

基本理念

【和】
社是「和」のもと、労使一体の全員経営により、輸送の使命を果たして、みんなの幸せを追求します。

【法の遵守】
国内の法又は関係法令及びその精神を遵守し、オープンでフェアーな企業活動を通じて、社会から信頼される企業をめざします。

【社会貢献】
地域に密着した企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献します。

【環境と顧客の優先】
環境に配慮した物流企画の提案と輸送品質の向上に努め、お客さまに満足していただける物流を提供します。

【全員参加】
全社員が職務に応じて企業の運営を分担する全員経営により、対話と活力に満ちた企業風土をつくります。

社訓

● みどりの和をまわし、一歩前進 ●

・お互いがお互いに教え教えられる教育の場

・働き甲斐・生き甲斐を求める人づくり

社名の由来・社章・商標・サービスマーク

エスライン

エスはスピード（迅速）、サービス（親切）、セーフティー（確実）のスリーエスのモットーを表し、ラインは、日本列島の道路を表し、全国一貫輸送体制の思いから名づけられました。

社章		スピード（迅速）、サービス（親切）、セーフティー（確実）のスリーエスのモットーを表し、日本列島を一本の線（Line）にまとめ、全国一貫輸送体制をシンボライズしたものです。 とくにLineは道路を表し、全国どこへでも行くことを意味し、S Lineのあとの文字は、その会社の本拠地を示しております。
商標		1. スリーエスのモットーのように迅速、親切、確実である 2. 軒から軒へ小回りが利く 3. 一団となって団結している 4. 長距離を定期的に飛ぶ 信頼され、愛されるツバメをデザイン化したこのマークは登録商標になっております。
サービスマーク		スリーエス（スピード・サービス・セーフティー）のモットーを3色で表し、それぞれの色には、次の意味が込められております。 黄緑：スピード＝活力 オレンジ：サービス＝愛情 緑（コーポレートカラー）：セーフティー＝健全 多様化・高度化する新しい時代のお客様のニーズに応えて、スリーエスをモットーに労使が力を合わせて物流サービスを提供し、みんな（お客様・家族）の幸せを追求していく姿勢を表現しております。

沿革（エスラインの誕生）

エスラインは岐阜市内の荷物取扱店からスタートしました。

大正から昭和の初め頃の輸送手段は馬車によるものが主体でした。

1914年(大正3年)当時、二代目山口軍治社長の祖母の里が岐阜市金竜町で馬車休憩所兼宿を営んでおり、白鳥･郡上･関･美濃など岐阜郡部からの荷物を馬車、荷車などにより岐阜市に運んできた人達はここに立ち寄り馬を休めたり、休憩、宿泊をしていました。

同宿が往来者で賑わい、物資の受け渡しが頻繁に行われるのを見た、山口友吉は、同宿にて生活物資の運送取り扱いを始め、順次拡大を図っていきました。

1928年(昭和3年)昭和初期には馬車に代わる輸送手段として日本にもトラックが輸入されるようになったため、山口友吉はこれをいち早く導入、荷物を取扱うだけの運送取扱店にとどまらず、自らもトラックによる荷物の集荷･配達を行うなど、当社の母体となる㊟山口運送店をスタートさせました。

【岐阜トラック運輸株式会社】が創立されたのは1938年(昭和13年)ですが、陸運統制令や終戦により統合、分離を経て1947年(昭和22年)3月、初代山口軍治社長のもと資本金18万円、社員67名、車両30台でスタートしました。

1958年(昭和33年)3月、初代山口軍治社長が急逝し、二代目山口軍治社長が29歳の若さで社長に就任しました。二代目山口軍治社長の若さと行動力と革新的な発想力で1979年(昭和54年)8月には売上100億を超えるまでに発展し、翌1980年(昭和55年)4月名古屋証券取引所市場第二部へ株式上場するまでに至りました。

運送店主　山口友吉

初代社長　山口軍治

二代目社長　山口軍治

沿革（弊社の歩み）

■売上高と車両台数の推移と歩み

エスライングループの注力項目①

若手ドライバーの育成。

トラック運送業界ではドライバーの高齢化が加速しており、弊社においても若手ドライバーの採用・育成は課題の1つです。

■ **ドライバー教育制度**

入社後3～4ヶ月の間、安全教育（安全運転・安全作業）を含めた実務教育、車両点検、整備の研修等の技能訓練を本社で行った後、配属された支店にて引き続きOJTなどの研修を行います。

■ **資格取得サポート制度**

中型・大型・牽引免許の取得のために「自動車運転免許取得推進制度」を設け、取得推進、労働意欲の向上、業務の効率化を目指しております。

エスライングループの注力項目②

働きやすい職場づくり。

人手不足が常態化する中で、健全な成長を図る為にも、労働環境の整備・改善に取り組んでいます。

■ **労務管理の見直し**

時間管理方法・勤務体制の見直しを実施しています。

■ **時間外労働の削減**

手待ち時間の短縮化、ITの活用による待機時間の効率化など長時間労働の削減を図っています。

■ **ドライバーの健康管理**

夜間乗務のドライバーには、6か月に1回健康診断の受診を義務化しています。
又、乗務前・乗務後には、対面点呼を行い、アルコール検知器により酒気帯び検査を行っています。

■ **長距離ドライバーの管理**

ある一定の長距離運行については、十分な休養が取れるシフト勤務体制と、2人体制での運行を徹底しています。

■ **職場環境の改善**

ダイバーシティの推進と有給休暇消化の奨励を行い、女性にとっても働きやすい環境になるよう整備を急いでいます。
集配トラックにオートマチック車の導入を進めています。

■ **コミュニケーションの充実化**

グループ会社間の組織の横断による人事交流を活性化させ、エスライングループの組織強化を図ります。

点呼時のアルコール検知器による検査

女性ドライバーも活躍しています

エスライングループの注力項目③

安全への取り組み。－ ①

社員が力を合わせて、日本一事故の少ない会社にします。

■ **社内「安全三原則 」の徹底化**

安全サイン
ONE! TWO! THREE! ZERO!

ONE	法定速度を守る
TWO	車間距離を保つ
THREE	追越しをしない
ZERO	事故はゼロ

安全サインは昭和43年に制定されてから40年以上、無事故の誓いとして受け継がれています。

■ **年2回の月間無事故運動**

7月は「つばめのシアワセ運動」、12月は「年末無事故と大増収運動」として、エスライングループ一丸となって、月間無事故を目指して、事故防止運動を展開します。

7月つばめシアワセ大運動

12月年末無事故と大増収運動

■ **無事故表彰制度**

永年無事故を継続し、他の社員の模範となるドライバーを讃えるため昭和42年4月に「永年無事故功労者招待旅行制度」を制定し、表彰を行っております。これまで本制度によって、延べ1,200人以上のドライバーが、招待旅行を授与されました。

10年無事故／北海道・九州・シンガポールのいずれか
20年無事故／ハワイ
30年無事故／オーストラリア
40年無事故／ヨーロッパ

エスライングループの注力項目③

安全への取り組み。－ ②

■ **ドライブレコーダーと連動した通信型デジタルタコグラフの導入**

幹線輸送を行う大型トラックなど、約350台にドライブレコーダーと連動した通信型デジタルタコグラフを導入しました。

ドラレコ画像を使った「ヒヤリ・ハット」事例による安全教育や急発進、急ブレーキ等、急がつく運転状況の分析をもとにドライバーの安全運転に向けた教育・指導に役立てています。

ドライブレコーダー画像

車載器に内蔵されたGPSによる車両位置の一元管理が可能となり、適切な運行指示と配車指示が可能となりました。

車両位置一元管理画面

■ **眠気検知システムの導入**

富士通株式会社の眠気探知機「 FEELythm(フィーリズム)＊」の開発に協力。
本年より、エスランギフの全ての幹線便に導入。
＊FEELythmは、富士通研究所が開発した独自のアルゴリズムにてドライバーの耳に装着したセンサーから取得した脈波情報などからドライバーの眠気状態を検知し、本人および運行管理者に通知することができます。また、デジタコなどの車載機と接続し、運行管理システムと連携させることで、運行管理者がドライバーの状態をリアルタイムに確認することができ、客観的なデータに基づいて最適な指示を出すことができるようになります。

エスライングループの注力項目④

地球温暖化の抑制、CO2の削減など環境への取り組み。

事業活動が環境に与える影響を認識し、環境を意識した取り組みをグループ全体で行っています。

■ 「環境方針」の設定

環境方針

基本理念
エスライングループは、社員一人ひとりが地球市民の一員であることを自覚するとともに、地球環境の改善が重要な課題であることを認識し、以下の活動のもと、環境目的を設定し、継続的に改善していきます。

活動方針
・車両の排気ガスを抑制し、CO2、NOXなど地球環境に負荷を与える物質の排出削減に努めます。
・燃料、電気、紙の無駄な使用をせず、省資源、省エネルギーに努めます。
・廃棄物の削減と資源のリサイクルに努めます。
・環境に配慮した資材購入を行います。
・法規制を遵守するとともに、業界方針なども積極的に実行します。

■ デジタルタコグラフの活用

- 経済運転によるCo2削減
- 安全運転による車両事故防止
- ドライバーの意識改善

などを目的として、デジタルタコグラフを全ての車両に取り付け、自社基準による経済運転と安全運転の解析と指導を行います。

■ エコドライブコンテストの実施

■ 環境配慮型新車両の積極導入

NOx対応の尿素システム搭載の大型車両や省エネ法に基づいた「低燃費で低排出ガス」のトップランナー基準車両を選択しています。

■ 3Rの推進（3R：Reduce=廃棄物を減らす、Reuse=何度も繰り返して使う、Recycle=再生利用）

- 車両整備時や廃車車両から発生するフロンガスの回収
- 環境負荷低減に努める事業者から、環境に配慮した資材購入をすすめる「グリーン購入」
- 再利用可能な「エコバンド」の利用によるプラスチックゴミの削減　など

本日はご清聴ありがとうございました。

Speed
Service
Safety

【お問い合わせ先】 株式会社エスライン　経営企画部
TEL：058－246－6749　FAX：058－240－4850
E－mail：keieikikaku@sline.co.jp

【免責事項】
本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。